

阿部 秀吉      森 舜次      加藤 直則

徳島県立ひのみね整肢医療センター

## 要 旨

1974年より当センターでは、保健所の依頼を受け乳幼児の先天性股関節脱臼の検診を実施しています。1979年から2000年までの22年間の検診結果を報告する。2000年には検診実施市町村は2市・17町・6村でした。

22年間の総該当児数は48,830人で、総検診児数は30,912人、総X線撮影数は1,056人で、内治療を要したのは77人（完全脱臼38人）で、発見率は0.25%（完全脱臼0.12%）であり、対象乳児に対する検診率は平均63.3%であった。先天股脱の出生月によるリスクは、夏生まれに低く、冬生まれに高かった。

キーワード：先天性股関節脱臼、乳幼児健診、先天股脱の予防

## はじめに

当センターでは、昭和49年から保健所の依頼を受け、乳幼児の健康診断の一環として、乳児先天性股関節脱臼検診を行っています。今回は昭和54年から平成12年までの22年間の検診結果を報告します。

## 対象および方法

昭和49年に13市町村を対象に検診を始めました。昭和54年は18市町村になり、その後次第に対象の市町村

が増えて、昭和57年からは24～26市町村で実施しています。

平成8年度まで保健所単位で行っていた検診も、平成9年度より市町村単位で行うことになりました。町の方針で2町が検診を中止し、1町に新たに依頼され、26市町村から25市町村になりました。その後、検診する市町村数に変動はありませんでした。

平成12年に私たちが検診を実施したのは、図1の赤枠の2市、緑枠の17町、青枠の6村です。1市町村当たり年2回～3回検診しています。これは徳島県の50市町村の半分にあたり、面積はほぼ半分ですが、出生数は3割に過ぎない過疎傾向の強い地域です。たとえば年2回実施する検診で、該当児が数人という村もあります。

私たちが市町村へ出向いて検診する年間の走



図1 先天股脱を実施している市町村

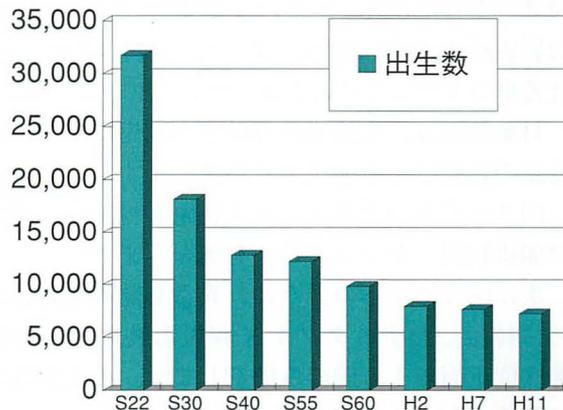


図2 県内の出生数の推移



図3 検診の方法

行距離は、2,500kmを越えています。

図2は、徳島県の出生数を表し、昭和22年の31,646人をピークに昭和60年には9,705人と1万人を切り平成11年には7,135人と次第に減少しています。

なお、徳島県の人口は昭和55年～平成11年までは82～83万人で安定しており、徳島県も少子高齢化の波が押し寄せています。

私たちの検診方法は、医師1名・放射線技師1名・事務職員1名の3名で出かけています。ポータブルX線撮影装置は、図3の左上のように、3個の荷物に分けて、普通車のトランクに入るほどコンパクトにしています。

対象乳児は、生後6ヶ月以下の乳児ですが、前回未受診の乳児は1歳前後までで検診します。

図3の右上のように、まず乳児を視診し、次に触診で開排制限・クリック等の有無をみます。

次に図3の左下のように、異常を認めた乳児は、直ちに持参したポータブルX線撮影装置で、両股関節伸展位正面の1方向のみ撮影します。尚撮影時は性腺防護板を使用し医師が乳児の下肢を持ち正しいポジショニングを行うようにしています。

次に図3の右下のように、撮影装置の外側を暗幕で囲い暗室とし、定着現像を行い、直ちに診断します。治療を要する場合は、その趣旨を母親に説明し、後日私たちのセンターで治療するようにしています。

## 結 果

22年間の総該当児数は48,830人、総検診児数は30,914人、総X線撮影児数1,056人、内治療を要したのは77人(完全脱臼38人)で、発見率は0.25%(完全脱臼0.12%)です。

対象乳児に対する検診率は年度により異なりますが、平均63.3%でありました。この低い数字は、出産した産院や病院で検診を受けていることも関係していると思われます。一方では、母親や保健師の先天股脱に対する認識の低さを示すものではないかと思われます。

図4は、昭和54年から平成12年までの、該当児数・検診児数・X線撮影児数の推移です。

開排制限など何らかの所見を有し、X線写真を撮影した乳児は、昭和54年から57年までは、10%近い数字

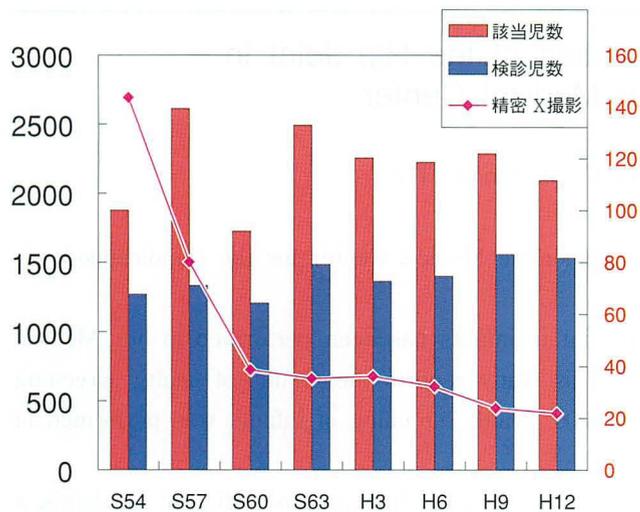


図4 該当児数・検診児数・撮影児数の推移

を示しておりますが、それ以後は3%前後に落ち着いています。

当センターの検診で38人の完全脱臼児は男児4例、女児34例です。

初診時月齢は、2ヶ月から11ヶ月平均4.3ヶ月です。

脱臼側は、右側8例、左側26例、両側4例です。

36例をRBで治療し、5例が未整復で後にOHT法

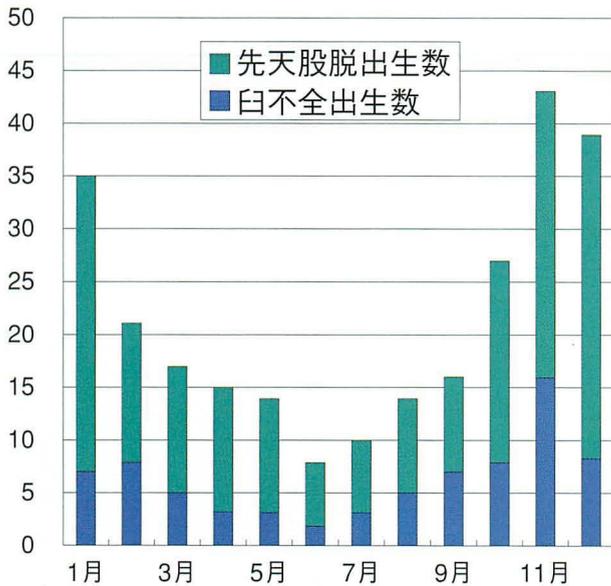


図5 先天性股脱および臼蓋形成不全の出生月

を行い、2例は最初からOHT法を選択し全例整復されましたが、3例の臼蓋形成不全が遺残し補正手術を行いました。

図5は当センターで治療した(乳児検診で発見した患児及び紹介患児)先天性股脱184例、臼蓋形成不全75例の出生月によって分類したグラフです。結果は11月・12月・1月に生まれた乳児に多く、5月～8月に生まれた乳児に少ない傾向にありました。この結果は従来いわれている育児の方法(オムツの仕方、着物の種類、抱っこの仕方等)と関係あると思われました。

## 考 察

昭和50年に石田勝正先生が、生後第一日目からの自然肢位育児による一次予防を提唱して以来、全国的に啓蒙活動が湧き起こり、予防活動が実践されました。27年過ぎた現在、予防活動の勢いは弱まっており、母親や検診に携わる人々に、乳児の扱い方や一次予防の正しい理解が、徹底しているとは思えません。

今後も、過疎地域の先天性股脱検診は必要であり、我々の義務と考えておりますが、同時に産科医・小児科医を始め、助産師・保健師・看護師に先天性股脱一次予防の意義・大切さを伝えていかなければならないと痛感しています。

予防の啓蒙や早期検診を怠ると、先天性股脱の増加を招来しかねないと考えます。

## 文 献

- 1) 鈴木良平：先天性股脱野軌跡—診断・治療・予防の物語。臨整外 11：329-334, 1976
- 2) 石田勝正：先天性股脱の予防—歴史・実証・実践・展望。臨整外 15：452-460, 1980
- 3) 山田順亮：先天性股関節脱臼成立の予防とその実践。整・災外 29：609-615, 1986
- 4) 山田順亮：先天性股関節脱臼診療のポイント。金原出版，東京，2002

---

## Frequency of Congenital Dislocation of the Hip Joint in Infants Treated in Our Medical Center

Hideyoshi ABE, Shunji MORI, Naonori KATO

Division of Orthopaedic Surgery, Tokushima Prefectural Himomine Medical Center for the Handicapped

Since 1974, screening for congenital dislocation of the hip joint in infants has been performed in our Medical Center according to the request of the public health center. This study reports the results of health screening performed in our Medical Center between 1979 and 2000. In 2000, health screening of infants was performed in 2 cities, 17 towns, and 6 villages.

Among 48,830 infants who were expected to undergo health screening for congenital dislocation of hip joints, a total of 30,912 infants actually underwent screening, including 1,056 infants in whom roentgenograms were acquired. Of these 1,056 infants, treatment was required in 77 infants, including 38 with complete dislocation of hip joints. The detection rate of congenital dislocation of hip joints was 0.25% (0.12% for complete dislocation), and the mean rate of infants undergoing health screening was 63.3%. The rate of congenital dislocation of hip joints was lower in infants who were born in summer and higher in those who were born in winter.

Key words: congenital dislocation of hip joints, health screening for infants, prevention of congenital dislocation of hip joints

Tokushima Red Cross Hospital Medical Journal 8 : 5 - 8 , 2003

---